

渡櫓

大天守と乾小天守を結ぶ 2 層の屋根付き通路（渡櫓）は、築城当初の 1593 年から 1594 年にかけて建設された。天守の正面玄関は、この渡櫓の地下 1 階部分にある。

奇妙なことに、2 つの天守とそれをつなぐ建造物の床は一致していない。渡櫓と乾小天守の 1 階と 2 階は同じ高さだが、大天守のそれは高い。そのため、渡櫓の 1 階から入城した人は、大天守の 1 階まで 1.4 メートルも上らなければならない。

渡櫓の 2 階にある巨大な横木のひとつは、その材料となった木の曲がったままの形で残されている。このような梁は、自然のままの形を保つことで、地震が起きたときに伸縮しやすくなると考えられていた。渡櫓に展示されているものは、大天守の修理の際に発見されたものだ。天守閣の建築に使われた大きな釘や木材のサンプル、屋根瓦などが展示されている。また、屋根の棟の端に被せる装飾瓦（鬼瓦）も数種類展示している。鬼瓦には、松本藩主の家紋や鬼の顔が描かれていることが多い。鬼瓦の恐ろしい表情は、魔除けとして城を守ると考えられていた。